

“Japanese” が頭につく鳥たち

Japanese Night Heron	—	ミゾゴイ
Japanese Crested Ibis	—	トキ
Japanese Lesser Sparrow Hawk	—	ツミ
Japanese Crane	—	タンチョウ
Japanese Murrelet	—	カンムリウミスズメ
Japanese Wood Pigeon	—	カラスバト
Japanese Green Pigeon	—	アオバト
Japanese Green Woodpecker	—	アオゲラ
Japanese Pygmy Woodpecker	—	コゲラ
Japanese Wagtail	—	セグロセキレイ
Japanese Waxwing	—	ヒレンジャク
Japanese Accentor	—	カヤクグリ
Japanese Robin	—	コマドリ
Japanese Marsh Warbler	—	オオセッカ
Japanese White-eye	—	メジロ
Japanese Reed Bunting	—	コジュリン
Japanese Yellow Bunting	—	ノジコ
Japanese Grosbeak	—	イカル

一体どのような鳥が頭に “Japanese” がついているかを『日本の野鳥』の英語版で調べてみますと、全部で 18 種類ありました。まずそれらを列挙し、更にその一つ一つについてどんな根拠があるのかを探ってみましょう。

この中のアオゲラ、セグロセキレイ、カヤクグリの 3 種は前回 ('94 年 12 月号) とりあげましたように日本固有種ですから、“Japanese” が頭についていても素直に納得がいきます。

全体的にいえることは、日本固有でないにしても、何等かの理由で特に日本との関連が強い、例えば、主として日本で繁殖し、生活の大部分を日本で過ごすもの。または、類似したものが他の国にもいて、その種との比較上「日本の種はこうである」というところを強調するために “Japanese” を冠しているものと思われます。

次回ではその具体例を上記 18 種の中から拾ってみましょう。

大宮のハクトウワシ